

年 組 名前：

総務省行政評価局は30日、遮断機も警報機もない「第4種踏切」が2019年度末時点で全国に2603カ所残っているとして、解消を加速するよう国土交通省に勧告した。事故の危険性があるのに、地域住民の反対などで廃止や改良のペースが鈍化。鉄道事業者と地域住民らの協議を促すなど、国としての取り組み強化を求めている。

危険な踏切 全国 **A** カ所

19年度末、山梨 **B** カ所

第4種踏切は現在の技術基準に適合せず新設はできないが、既存箇所は経過措置で認められている。都道府県別では山口が162カ所で最も多く、次いで長野121カ所など。山梨は37カ所。
勧告によると、廃止や、遮断機と警報機のある第1種踏切化により1960年度の6万カ所超から大幅に減ったものの、近年は年間50カ所程度の減少にとどまっている。

19年に起きた踏切事故は、第1種が100カ所当たり0・59件に対し、第4種は1・02件と発生頻度が高い。

総務省が各地の状況を調べた結果「農耕車の通行や生活道路として利用され、廃止は困難」との声があったほか、廃止すると迂回に時間がかかり住民の納得が得られていない事例があった。

第4種踏切は現在の技術基準に適合せず新設はできないが、既存箇所は経過措置で認められている。都道府県別では山口が162カ所で最も多く、次いで長野121カ所など。山梨は37カ所。
勧告によると、廃止や、遮断機と警報機のある第1種踏切化により1960年度の6万カ所超から大幅に減ったものの、近年は年間50カ所程度の減少にとどまっている。

(2021年12月1日付 山梨日日新聞21面)

問1

見出しのA、Bに入る数字は何ですか。

『危険な踏切 全国Aカ所 19年度末、山梨Bカ所』。

A 「 カ所」 B 「 カ所」

問2

遮断機・警報機がない「第4種踏切」で起きた事故の割合(2019年度)は、遮断機・警報機がある「第1種踏切」での事故の割合の約何倍か。正しいものに○を付けてください。

「 」 0.9倍 「 」 1.3倍 「 」 1.7倍 「 」 2.2倍

問3

踏切を廃止するのがなかなか難しいのが実情です。その理由を2つ挙げてください。

-
-